

# 自己実現への道

## 第90回 - 第6章 「創意と忍耐の前に『不運』はない」(その9) -

### ★ 自分にどこまで辛抱できるか

積極的に考える人はあらゆる戦いに打ち勝ちながら成長してゆくが、消極的に考える人はすぐにあきらめて戦いから手を引きたがる。何を恐れているのか。失敗を恐れているのか。戦いに参加しなければ勝利を手にはすることはできない。戦ってみて初めてそれがどんなものかがわかるのだ。戦いをあきらめて降伏すれば、永久に暗い闇の中に取り残されて、自分の隠れた力に気づかない。まずは何よりも、自分自身に戦いを挑むことである。誰もが価値ありと評価し、適当な時間内で達成でき、そして自ら誇ることでできるような目標を設定しよう。

その目標が達成されたら、さらに大きな目標を立てて挑戦するのだ。道はいくらでもある。自分自身との闘い、競争があるからこそ人は進歩する。有力なライバルがいるからこそ、刺激されて、より高みを目指すことができる。次々に目標を立てて、挑戦しよう。必死になって挑めば、知らず知らずのうちに、必ず見えざる力が、あなたを本当のあなたの姿へと導いてくれるだろう。

### ★ 「余分の一步」こそ、勝利の切り札

「自分は今、あらゆる可能性について調べ尽くしてしまったと思う人は、この声に耳を傾けてほしい」・・・「あなたは決して調べ尽くしてはいない」

徹夜で漁をした漁師の話。「徹夜で漁をしましたが、何一つ獲れませんでした」そして、神の声は言った。「深みに漕ぎ出して、網を下ろしなさい」と。何度やってもダメだったのに、また同じことをするのかと・・・でも、もう少し遠いところへ行ってみよう。試しに網を下ろしてみた。そしたらどうだろう・・・今度は網が引きあがられないほど、たくさんの魚が獲れたのだ。

人生は海での漁に似ている。魚群が、ある地点から別の場所に移動するのは、人生のさまざまな好機がいつも人々の周囲を歩き回っているのと似ている。私たちの周辺には、まだ人が手を伸ばして触れたことのない未知の可能性がいっぱい残されているのだ。積極思考型の人間は、優れた性格に恵まれている。彼らは他の誰よりも一歩余分に踏み込む。この余分の一步こそ、勝利の切り札なのである。

「人よりも少しでも多く進むことが重要だ。何回やっても駄目だとへたばるな。最初の合成繊維であるナイロンは66回目の試作で成功した。また、エジソンが電灯を発明するまでに、千回のテスト(千回の失敗)を経ているのである」

<MIKO>

☞ 参考文献：Tough Minded Faith For Tender Hearted People by Robert H Schuller より